

“Heart to Heart”

心から心へ わちあう あたたかさ

第15巻 第3号 (No.46)

発行日 2021年3月1日

学習の場所であり居場所であり続ける

目次:

学習の場所であり 居場所であり続ける	1
療育プログラムの様子	2 3
コラム：危機をチャンスに 就労支援の変遷	4
教育センターからのご案内	4

武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、2回の緊急事態宣言が実施されました。それから1年が過ぎましたが、何もわからなかった時期や試行錯誤した時期を過ぎ、新たな場面に入っているのではないかと思います。

以前よりわかったことも増え、子どもたちも新しい生活様式に適應している様子も見受けられます。しかし、いくら新しい生活様式に適應してきたとはいえ、見えない敵との戦いが長期に及んでいることに変わりはありません。そんな今だからこそ、子どもたちの心に寄り添う「居場所」としてのセンターの必要性を強く感じ、子どもたちに安心してもらえるように、試行錯誤しながら情報発信を行ってきた1年でした。

教育センターは、先にも書きましたが、子どもたちにとって「学習する場所」であると同時に「居場所」でもあります。保護者の方々にとっても情報交換できる同じ仲間や所員と話してほっとできる居場所ではないかと思っています。

人との安心したつながりを維持できると、子どもたちの心が安定して自立性が育ちます。発達に課題がある子どもにこそ、「周囲の人々とのかかわりやつながりが大事である」と感じられるように育てていくことが必要であることを日々実感しています。「心身相関」まさに心と身体は表裏一体。人は不調なとき、知らず知らずのうちに心身どちらかの不調のシグナルを発信するものです。

子どもたちに対応するときに配慮するポイントは、「生活リズムの回復」「自律神経

への影響」「学力への支援」「ストレス反応」です。これらのことに注意を払いつつ、子どもたちの日々の生活を緩やかに組み立てていくことがストレスを軽減し安定した日常につながっていきます。

感染症が流行ると怒りっぽくなりストレスがたまりやすくなるため、誰かを責めたり、いじめめなことがエスカレートしやすくなったりすることがあります。普段より強い調子で子どもたちの喧騒、これまで見られなかった突飛な行動や粗暴さなどが見られるようでしたら、背景には不安な気持ちが潜んでいます。切り詰めた生活や表面に出てきている行動だけを指摘することなく、他の当たり前前にできているものに目を向け評価していく必要があるかもしれません。

2020年度も終わりに近づきました。コロナで始まりコロナで終わる一年でしたが、これまでと同様にできたこと、これまでの方法や考え方では通用しないことが多々ありました。センターでも新たな取り組みとしての動画配信やオンラインの試みなど、子どもたちにとっても私たち大人にとっても学び多き一年であったと思います。もう少しこの状況が続くことですが、今年度学べたことをさらに発展させるとともに新たなチャレンジをしていきたいと思っています。そのためにも居場所であり、学びの場であり続ける教育センターとして、子どもたち一人一人の発達に応じた教育の提供を続けて行きます。

来年度もご協力の程、よろしくお願ひいたします。





療育プログラムの様子 【各教室・言語プログラム】

幼児絵画造形教室 一緒に活動してきた友だちとの写真を飾るために写真立てを作りました。細い幅のフレームの上に、へび状にした紙粘土を貼り付けて額が完成。たくさんのビーズ、ボタン、タイルの中から「何色にしようかな」「こんな感じかな」とそれぞれが選び、思い思いに飾り付けを楽しみました。今年のクラスは全員が年長児ですので、教室から巣立っていきます。(本田)



はやく写真が入りたいな!

リズム教室 画面に映し出された矢印を見て、同時に同じ方向に両手や片手を動かす「矢印運動」を行っています。上下は両手ですが、左右は片手のみ。慣れてきたらテンポを速くしたり、「上」「下」「右」「左」など声に出したり、少しずつレベルアップしています。子ども達はゲーム感覚で楽しんでいます。頭の中は情報を入力し、考え判断して大忙しです。この試行錯誤する時間を大切に、楽しみながら体や脳をほぐしています。(高橋)



矢印運動

音楽教室 子どもたちはキーボードに挑戦しています。課題曲は「喜びの歌」。この曲は、ミファソ ソファミレ ドレミ ミレレ♪ と、音がドレミの音階に沿って並んでいるのです。一つの音から次の音に行くのはいつも隣の音。世界的な名曲の秘密はこの親しみやすさにあるわけです。指の運びも分かりやすくリズムもシンプル。両手を使って弾けるように練習していきます。(平瀬戸)



抜群の集中力

SST教室 3、4年生は目隠しをした友だちを言葉だけで迷路の出口まで案内する「道案内ゲーム」をしています。目隠し役と案内役の両方を経験することでどんな言葉かけが相手に伝わりやすいかを自身の体験から考えることができます。「～くんの指示が分かりやすかった」「～くんの言い方を真似してみた」など互いに学び合う姿も見られ、充実した時間になっています。(猪野)



道案内を試みよう

ダンス教室 発表会が無事に終わりました。今年度は「ビューティフルネーム」と、ポンポンを使った「スマイル・スマイル」という作品を披露しました。昨今の状況を考慮し、参観はご家族のみとさせていただきます。ただきましたが、子どもたちは力いっぱい練習の成果を発揮することができました。最後まで頑張った子どもたちに盛大な拍手を送りたいと思います。(益田)



笑顔でポーズ!

言語プログラム 「おやつたべよ!」の歌に合わせて「いちご、ごーごー!」と、最後の音を繰り返しながら一緒に歌っています。ジュスチャーを付けることで、相手を見て模倣する力や相手と合わせる力を育てます。また、歌に出てくるおやつのお絵カードを見て「赤い果物はどれ?」などと質問して選ぶゲームもしています。リズムに乗って声を出したりゲームをしたりして、楽しみながら取り組んでいます。(服部)



赤い果物をさがしているよ

体育教室 ボルダリングで上や横方向へ移動する活動に取り組んでいます。横へ移動する活動では、肘を大きく伸ばしてホールドをつかませる目的で、指定した2色だけをつかんで移動するようルールを決めました。肘を伸ばすことで視野が広がり、進む先や目当てとするホールドを見つけやすくなります。どの子どもも、目や手足をしっかりと働かせながら取り組んでいました。(鈴木)



黄色と緑色!

コンピュータ教室 毎年、まとめの活動として「新聞づくり」を行っています。記事の内容は、自分の好きなことや興味のあることをみんなに紹介するというもので、文章の入力や画像の貼り付けなどこれまでに習ってきたことを活用して作業を進めることができました。中には「2枚目の新聞を作ってもいいですか」という子もいて、楽しくまとめの学習をすることができました。(大澤)



みんなの新聞



【スクールプログラム・ラーニングプログラム】

幼児 1、2月はパーツやシールを貼って雪だるまを作ったり、折り紙を折ってペンギンを作ったり、各学年で冬の製作を楽しみました。製作は、顔のパーツを貼る位置や、サインペンで描く目や口でそれぞれの作品の表情が変わるのが面白いポイントです。題材に合った絵本や絵描き歌を楽しみながら、みんな一生懸命に作り上げることができました。(益田)

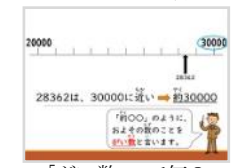
1年生 音楽でサウンドシェイプスという楽器を使い、リズムの活動をしています。最初に全体で「トントン」とリズムを口ずさみ、大まかな流れを把握してから実際にサウンドシェイプスを使います。四分音符や四分休符、八分音符を組み合わせたリズムの合奏は、くりかえし練習することで少しずつクラスの一体感が出てきています。(諸橋)

2年生 図工は手指の器用さを含めた様々なスキルを学ぶ機会であり、手順を理解して、机の上や材料を整理しながら作業を進める力を養える時間でもあります。以前に比べると、図工に対する苦手意識があった子どもも楽しめるようになってきており、一人一人の手際がよくなってきていると感じます。今後も多くを学べる図工の時間にしていきたいと思っています。(宮下)



バウンドパス練習中

3年生 体育でバスケットボールを使った活動を行っています。身体回りでの操作、両手や片手でのドリブル、パスなど様々な活動を行っていますが、バウンドパスの練習が一番人気です。両手で胸からボールを押し出す動作をしっかりと行い、地面の目印を手掛かりにパスをしたり、少しずつ距離を伸ばしたりするなどそれぞれにあった方法で練習をしています。(猪野)



「がい数」って何？

4年生 算数の授業でがい数の学習をしています。はじめに、「がい数」と、関連の「四捨五入」について分かりやすく説明してから学習を進めました。「〇の位までのがい数にしましょう」「〇の位を四捨五入してがい数にしましょう」など、設問の形式が変わることで少し苦戦していましたが、みんな問題文をよく読んで、注意深く、根気強く課題に取り組んでいます。(柳澤)



スライドを見て音読

5年生 2月から、国語で「大造じいさんとガン」を学習しています。今年度の教育センターの重点目標は「聞く、話す、読む、書く」です。「読む」学習では、プロジェクターを使い黒板に文字を大きく映し出した文章を読むことで、顔が上がって声も大きくなりました。今後も物語・説明文・伝記・文法等の内容に応じて学習目標を設定していきたいと思っています。(藤本)

6年生 算数の「資料の調べ方」では、度数分布表や柱状グラフについて学習します。その前段階として、「以上」「以下」「未満」の言葉の意味、考え方について復習しました。また、数直線を利用して、以下と未満をどう区別するかも確認しました。次はいよいよ度数分布表や柱状グラフの読み書きに挑戦していきます。(宮川)

中学生 コンピュータのタイピング練習の一つとして、国語の学習で扱う物語や随筆をWordで入力する活動を行っています。プロジェクターに投影された文章を、10分間で何文字打てるかに挑戦する課題では、「今回は、100文字は突破したいな。」など、子どもたちそれぞれが目標を定め集中して課題に取り組んでいます。(宮川)

ラーニングプログラム 手指の巧緻性(指先の器用さ)は子どもの発達にとって大切な要素です。高い巧緻性を獲得するには意識的なトレーニングが必要です。センターでは工作遊びや作業などを多く取り入れるようにしています。ビーズ通しでは最後にネックレスにしたり、ボタンのつけ外しを魚の形をしたフェルトで練習したりしています。子ども達は夢中になり真剣な顔を見せてくれます。巧緻性を伸ばすトレーニングを行うことで、集中力がつき書字のベースとなる力も高まってきます。(藤原)



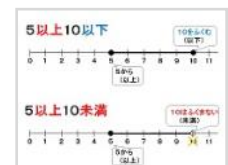
氷の上のペンギンさん



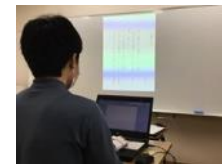
皆で合わせて



作品「はるがきたよ」



以上・以下・未満



何文字打てるか挑戦



楽しい作業課題



コラム 就労支援にたずさわって (1)

危機をチャンスに 就労支援の変遷

鎌倉ゆみ子 (前武蔵野千川福祉会理事長)

昨年7月武蔵野東学園のアドバイザーボードミーティングにて「武蔵野東小学校におけるIT教育について」という主題でのレポートを伺う機会を得ました。

コロナ禍、学校休学措置状況のさなか、ITを駆使して個々の児童ひとりひとりに即した家庭学習推進の様子をつぶさに見聴きでき、まさに危機を変革へのチャンスと実践を深めておられることに感銘を受けました。

まずは家庭で朝食・歯磨きし、定時に机にむかひましょうという示唆、日常生活習慣を崩さず維持することこそ危機的状況にある子供たちにとって最も大事にしたいポイント、と思ひ至りました。

私が理事長として10年余り務めた武蔵野千川福祉会もまた平成の始まりころ新たな市内障害者福祉状況の変化に伴い、民間共同作業所としてのありようの変革を迫られた状況がありました。月村前理

事長を中心として「どこにもない作業所を創ろう」と「個々に応じた働く力」を育て、伸ばしていく方向性を探り、危機を変革のチャンスとして福祉実践を追求し、現在の高生産・高工賃で都内一となる機能分化した就労事業所づくりにいたっております。

ふりかえれば平成半ば、この変革の時代は、同時に障害のある人たちの就労支援の状況がまさに大転換したときでもあります。

この国の経済が高度成長をまっしぐらに遂げていった昭和50年代、障害のある人たちは中学校を卒業すると即戦力となって企業就労に進んだのです。当時私も公立中学心障学級の担任でした。そこにおいて目指すところに「可愛がられる障害者」像があり、物言わずひたむきに働く姿がよしとされました。

けれども平成のバブル崩壊とともに、雇用うちどもも多くなる危機のなか、障害者就労支援を旨とする

人たちから「ハッピーリタエア」が謳われ、「職場を変えてもいいじゃないか、



やり直してもいいじゃないか」と地域で就労支援センターづくりが始まったのです。私も一教員として地元の親の会の方々とともに就労支援という組織や、障害のある人の新たな働く場づくりや、同時に働く活動を支える余暇支援について等々話し合いつつ、かたちとして創っていった経緯があります。

それはまた障害のある人自身が、「自分が働く場」や「自分のこれから」について思考し、選択をするという主体そだての道でもありました。危機から新たなステージへの展開、現在こそ、その時であろうかと思う次第です。

※鎌倉先生には学園アドバイザーボードメンバーとして様々なご教示をいただいています。

このコラムは4回シリーズでお届けいたします。

2021年度セミナーのご案内

2021年度の保護者・支援者向けセミナーの日程が決まりましたのでご案内いたします。講師が決定しましたらホームページなどでお知らせします。4月上旬より募集を始めますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

- 第1回 2021年 6月17日 (木) 10時～12時
- 第2回 2021年 11月19日 (金) 10時～12時
- 第3回 2022年 2月 3日 (木) 10時～12時



2021年2月 小林マヤ先生
「小学生以上のコミュニケーション支援」

学校法人 武蔵野東学園
武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org



ホームページもご覧ください

2021年度療育プログラムについて

2021年度の療育プログラムに多くの方に応募いただきありがとうございました。まだ若干空きがあるプログラムもございます。空きがないプログラムについてはキャンセル待ち登録もできますので、ご遠慮なくお問い合わせください。